【規程番号　神女大Ｖ－023】

# 助産師国家試験受験資格取得にかかる履修細則

**第１条**　神戸女子大学学則（以下「学則」という。）第33条第５項に基づき、看護学部看護学科（以下「本学科」という。）における助産師国家試験受験資格取得にかかる履修細則を定める。

**第２条**　助産師国家試験受験資格取得を選択する者の定員は６名とする。

**第３条**　助産師国家試験受験資格取得を選択できる者は、本学科に在籍し当該資格取得にかかる選択科目の履修を希望する者であって、かつ、選抜によりその科目履修を許可された者とする。

**第４条**　前条に定める選抜の時期、方法及び選考基準は別に定める。

**第５条**　助産師国家試験受験資格取得の選択を希望する者がその定員を下回る場合であっても、前条の選考基準を満たしていないと判断された者には、当該資格取得の選択を認めない。

**第６条**　保健師国家試験受験資格取得の選択を認められた者は、助産師国家試験受験資格取得を選択することができない。

**第７条**　助産師国家試験受験資格取得の選択を認められた者は、原則として、学則第３条第1項に定める修業年限内に、別表第1に掲げる授業科目を全て修得するものとする。

**第８条**　助産師国家試験受験資格取得を目的とする場合にあっては、学則第45条の規定を適用しない。

**第９条**　助産師免許を受けようとする者は、別表第1に掲げる授業科目を修めて卒業し、助産師国家試験及び看護師国家試験に合格した上で、保健師助産師看護師法施行令及び同法施行規則に定める所定の申請手続きを行わなければならない。

**第10条**　この細則の改廃は、部局長等会議の意見を聴き学長が行う。

**附　則**

この細則は、平成27年4月1日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成31年4月1日から施行する。

**附　則**

１　この細則は、令和4年4月1日から施行する。

２　この細則の施行前に在学する学生については、なお、従前の例による。

別表第１　助産師国家試験受験資格取得にかかる授業科目

| 保健師助産師看護師学校養成所<br>指定規則別表第２に掲げる教育内容 | | | 本学授業科目 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 教育内容 | | 単位数 | 授業科目名 | 単位数 | |
| | | | | 必修 | 選択 |
| 基礎助産学 | | 6 | 生命倫理 | 2 | |
| | | | 発達心理学 | 2 | |
| | | | 栄養代謝学 | 1 | |
| | | | 人体のしくみと機能Ⅰ | 2 | |
| | | | 人体のしくみと機能Ⅱ | 2 | |
| | | | 疾病と治療Ⅵ | 1 | |
| | | | 小児看護論 | 2 | |
| | | | 小児療養看護論 | 1 | |
| | | | 母性看護論 | 2 | |
| | | | 女性の健康増進と看護 | 1 | |
| | | | 助産学概論 | 1 | |
| 助産診断・技術学 | | 10 | こころの健康増進と看護 | 1 | |
| | | | 疾病と治療Ⅴ | 1 | |
| | | | 成育看護技術演習Ⅰ | 1 | |
| | | | 成育看護技術演習Ⅱ | 1 | |
| | | | 助産診断技術論Ⅰ | 1 | |
| | | | 助産診断技術論Ⅱ | 1 | |
| | | | 助産診断技術論Ⅲ | 2 | |
| | | | 助産診断技術論演習 | 2 | |
| 地域母子保健 | | 2 | 社会福祉・社会活動論 | 1 | |
| | | | 地域看護活動論 | 2 | |
| | | | 家族看護論 | 1 | |
| | | | 地域における助産支援 | 1 | |
| | | | 災害看護 | 1 | |
| | | | （母性看護論） | — | |
| 助産管理 | | 2 | 医療と法 | 1 | |
| | | | 社会福祉・社会保障論 | 1 | |
| | | | 看護マネジメント論 | 1 | |
| | | | 助産管理 | 1 | |
| 臨地実習 | 助産学実習※ | 11 | 成育看護実習Ⅱ（母性） | 2 | |
| | | | 助産学実習 | 8 | |
| | | | 課題探究 | 4 | |
| 合計 | | 31 | 合計 | 51 | |
| | | | （　）の授業科目は再掲 | | |

※実習中の分べんの取り扱いについては、助産師又は医師の監督の下に学生一人につき10回程度行わせること。この場合において、原則として、取り扱う分べんは、正期産・経腟分べん・頭位単胎とし、分べん第一期から第三期終了より2時間までとする。